行政視察報告書

＊期　日　平成３０年１月２５日(木)～２６日(金)

＊調査地　富山県富山市

・富山市立芝園小学校・芝園中学校

小中一貫的連携教育について

茨城県古河市議会

文教厚生常任委員会

平成３０年３月１６日　報告

委員長　落合康之

副委員長　佐藤　稔

委　員　稲葉貴大

委　員　高橋秀彰

委　員　鈴木　隆

委　員　長浜音一

委　員　渡邊澄夫

富山市

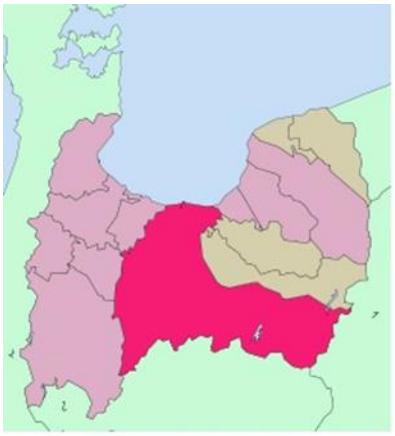
【富山市の概要】

富山県の中央部から南東部にかけて位置する市で、富山県の県庁所在地であり、国から中核市の指定を受けている。県庁所在地の中では 2 番目に広い総面積を持ち、富山県の 29.24%の面積を占め、一つの市町村が県に占める面積の割合としては全国一である。

市の北部から中部には、神通川・常願寺川などの川によって形成された沖積平野の富山平野が広がる。中西部にはなだらかな呉羽丘陵が横たわり、南部には飛騨高地が、南東部には雄大な北アルプス立山連峰が聳える。富山平野の北側には、豊富な魚介類の宝庫である富山湾が広がっている。

富山ライトレール開業、まちなか居住推進事業、中心市街地活性化基本計画等、『公共交通を活かしたコンパクトなまちづくり』を進めている。

2015 年の北陸新幹線開業により、北陸地方における観光地として、多くの観光客が訪れる街となり、賑わいを見せている。



（中央の色の濃い部分が富山市）

富山市【人口・面積はH30.1 月末現在】
人口　418,000 人
面積　1,241.77km2（境界未定部分あり）

平成 29 年度 当初予算
一般会計　1,544 億 3,908 万円
特別会計　1,436 億 3,896 万円
企業会計　454 億 4,055 万円

＜芝園小学校・芝園中学校＞

小中一貫的連携教育について

【調査事項】

（１）小中一貫的連携教育の方針・考え方について

芝園小学校・芝園中学校の沿革であるが、平成７年に「総曲輪（そうがわ）小」「愛宕小」「八人町小」「安野屋小」の通学審議会が開かれて答申が出され、平成１６年に統合を決定、平成２０年４月、芝園小・中学校小中学校一体型校舎が竣工となった。

小中連携推進の経緯については、小中連携推進事業（設立：平成１５年４月～１６年３月以降独自に継続）があり、「小学校と中学校が連携して、９年間を見通した教育（連続性・継続性のある教育）の望ましい在り方について実践研究を進める。」を趣旨とし、その研究推進校は「芝園中学校上記の小学校４校」となった。研究内容は「学習指導法の工夫、幅広い異年齢集団の交流活動等」があげられており、教育内容懇談会、合同会議、合同研修会等も開催するとされた。

小中一貫的連携教育を進める利点については、小・中学校が隣接していることの利点として、①相互授業参観、合同研修、行事の共同実施等が容易である。②小・中学校間で連絡が取りやすい。③児童生徒が互いの作品や活動からよい刺激を受けることができる、というものである。（参考平成１５年５月学校教育課「小中連携教育について」）

以上が導入にあたっての経緯となるが、現在、小学校中学校それぞれに校長が２名おり、校舎はつながっていてもそれぞれの方針で進めている状況である。校舎が一体であることでできることをやっていく、無理はしない、という方針である。

〈小中一貫的連携教育〉
① 小学校と中学校が連携した授業・活動を展開します。
② 家庭学習と読書活動を中心に、自ら学ぶ習慣を育てます。
③ 働くことへの関心・意欲を高める指導を充実させます。
④ 学校行事やボランティア・文化活動等を通して豊かな心を育みます。
⑤ 強い体とたくましい心を育てます。

（２）施設設備の概要について

小・中学校一体型校舎で、校舎建設にはPFI方式を採用している。

敷地面積	24,466.44㎡
建物構造	鉄筋コンクリート造、一部鉄骨造、鉄骨鉄筋コンクリート造 地下１階、地上４階建
耐震安全性	免震構造（中学校体育館は制震構造）
延床面積	22,041.42 ㎡
校舎	14,300.67 ㎡（小学校6,559.69 ㎡、中学校5,295.87 ㎡ 小中共用 2,445.11 ㎡）
体育館等	4,009.00 ㎡（小学校1,613.28 ㎡、中学校1,471.19 ㎡ 地域連携施設　924.53 ㎡）
その他	（給食施設、武道場、地域健全育成室、プール等）3,731.75 ㎡

事業方式	PFI（ｻｰﾋﾞｽ購入型 BTO方式）
契約日	平成18年3月14日
事業期間	契約日～平成35年3月31日（約17年間）
供用開始日	平成20年4月1日
契約先	（特別目的会社）富山県富山市牛島新町5番5号 芝園ユースウェアサービス株式会社 出資者　清水建設㈱、㈱サンケイビル、㈱大和
契約金額	6,294,755,552 円
ＶＦＭ	31.8％
（ＶＦＭ・・・value for money の略称。PFI 方式により、従来方式と比較して削減できた総事業費の割合のこと）	

芝園小学校

①普通教室　　１９室　（特別支援学級１室含む）
②特別教室　　理科室、音楽室、図工室、教育相談室等
③多目的教室　多目的教室６、オープンスペース、ワークスペース
④管理室等　　校務センター、校長室、保健室、事務室等
⑤その他　　天然芝グラウンド、体育館、地域児童健全育成ルーム等

小中共用部

②特別教室	音楽室、家庭科室２、メディアセンター（図書室、ＣＡＬＬ教室、コンピュータ室、自習スペース）、ランチルーム
④管理室等	会議室、調理室

芝園中学校

①普通教室	１３室　（特別支援学級１室含む）
②特別教室	理科室２、音楽室、美術室、技術室、教育相談室、進路指導室等
③多目的教室	多目的教室３、オープンスペース、ワークスペース
④管理室等	職員室、校長室、保健室、事務室等
⑤その他	体育館、芝園武道館等

主な特徴

（共 通）	①パサージュ、②みんなの広場と時計塔、③免震構造（中学校体育館は制振構造）
（小学校）	④屋根開閉式屋上プール（床昇降式）、⑤教師コーナー⑥表現の舞台、⑦天然芝グラウンド、⑧４校歴史展示コーナー
（中学校）	⑨吹き抜け大階段、⑩ＣＡＬＬ教室（コンピュータ支援による語学教育教室）⑪人工芝テニスコート

（３）小中一貫的連携教育を実施しての児童及び保護者の反応について

小中一貫的連携教育の成果として次のようなことがあげられる。小・中学校の児童生徒が生活空間を共有し、合同で活動に取り組むことで、児童生徒はもとより、教員と児童生徒の間にも自然な交流が生まれ、小学校から中学校への滑らかな接続につながっていること。そして、日常的により多くの教員の目で児童生徒を見ていく環境が整っていることで、成長に応じた効果的な生徒指導が行われること。以上のように、連続性、継続性のある効果的な教育が行われている。

これらにより、近年言われている「中一ギャップ」が、芝園小中学校では少ないと思われる。小学校にいっしょに登下校していた児童が、中学校でも共にいるからと考えている。ＰＴＡも、小学校から中学校へそのまま移行するため連携がしやすい状況である。

（４）教員及びＰＴＡへの理解の求め方及び意見聴取について

芝園小・中学校は一体型校舎で「小中一貫的連携教育」を行っている。小・中学校では、授業参観、合同研修、中学校教員の出前授業等を行っており、教職員が互いの指導観や指導法を共有することで、児童生徒理解や指導力の向上を図ったり、情報交換や交流を密に行い、児童生徒の成長に応じた効果的な対応ができるようになったりしている。また、児童生徒の作品や活動を互いに見合うことができ、よい刺激を受けている。行事等をホームページや学校だよりで地域に報告している。

教職員たちの負担になることも考えられるが、やってよかったなと思える負担はいいと思うが、無理にやっているのならばその負担感は大変であると思う。現状では無理のない形で進めているので、負担感はないと思っている。

（５）カリキュラム編成の特色について

小中一貫「的」連携教育ということであるので、基本的に小中それぞれでカリキュラムを作っている。出前授業などは行っており、児童生徒・教員同士の交流はある。その成果として、児童会・生徒会の積極的な交流や合同研修会、中学校教員による出前授業、授業の相互参観（年２回２週間程度の期間）がある。

具体的な小・中合同の活動としては、小中合同挨拶運動、さわやか挨拶運動（ＰＴＡも参加）、図書館祭り（中学生による読み聞かせ）、ビューティフルプロジェクト（小中合同地域清掃）、陸上競技指導（小学生に指導）、小中合同緑化運動（小４～６年生と中学１年生の交流、グループで球根植え）、小中合同避難訓練、生徒作品の小学校展示、ノート交流（中学から小学校へ）などである。夏には「小中合同研修会」として、生徒指導の対応具合や、Ｑ－Ｕ調査を基にした事例検討を行っている。生徒指導事案等については、随時情報の共有を図っている。

特徴ある施設を利用した授業としては、「表現の舞台」と呼んでいるオープンスペースがあり、舞台のような階段状の床となっている。発表者と観客のようなスタイルで授業を行うため、児童たちに人気である。

（６）現状および今後の課題について

本校は、学区外選択が可能なため、周辺の市町村から通学している児童・生徒も多い。その中にはいろいろな問題を抱えた児童・生徒も多くおり、その対応にも十分な注意が必要となる。

小中一貫的連携教育を進める留意点として重視しているのは、①連携のための事務や打ち合わせが過度の負担にならないようにすること。②それぞれの独自性を大切にし、特に小学校が中学校の準備教育のような印象を与えないようにする。③交流時のマナーの徹底等、生徒指導面で配慮する。以上があげられる。

【視察後記】

当委員会は目下古河市内で議論されている小中一貫的連携教育に関し理解を深めるため、先進地である富山県富山市芝園小中学校において視察研修を行った。

小中一貫的教育の考え方に関しては、小学校中学校がお互いに無理のないようにできることを行うというものであった。
期待すべき中 1 ギャップの解消等に関しては、小学校から一緒に登校していた友達が中学校でもいっしょにいるので、中１ギャップを抱える生徒は少ないだろうという見解であった。
ハード面においては、施設の管理が PFI 方式で行われているという点においては良い先進事例と感じ、今後古河市においても取り入れられたいと願っている。
研修終了後、参加した当委員会の方々と意見交換した折に、今回の視察で学んだ小中一貫的連携教育の考え方は先例として参考にし、古河市における小中一貫教育のあり方については、児童・生徒のためにより充実したものにすべきとの意見が大半であったことを付け加えておく。

当該案件に関しては、何よりも現場の先生方への配慮、そして児童生徒にためになるかならないかということが最大の判断材料とならなければならないことが確認できた有意義な視察研修であった。

【富山市芝園小中学校での視察研修】

～研修風景～

～校舎内見学風景～

～校舎設備風景～